

1番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、上田の一般質問をさせていただきます。何分、新人の若輩者でございますので、文言や表現に不適切な面があるかもしれませんが、できるだけ質問の意図するところを間違えないように発言するよう努力いたしますので、皆様どうかよろしく申し上げます。

さて、私は皆様と同じように、生まれ育ったこの武雄市をもっとにぎわう町、そして住みよい町になるように市民の方々の声に耳を傾け、行政の意見を聞きながら、市民と行政とのパイプ役として誠心誠意努めてまいりたいと思っております。合併により新しい町に生まれ変わったこの武雄市ですが、私自身、本当の意味での新しい町はこれからが始まりだと認識しております。

先般行われました選挙を振り返ってみましても、お互い、見た目は抜きにして市長が36歳、私が34歳、市長と同世代の若者として市民の方々の声を聞いてまいりましたけれども、以前と比べ確実に若い世代の市政へ関心が高まってきているのではないかと感じている次第でございます。少なからず、もうどがんじゃいせんばいかんぞという気持ちが芽生えてきていると、そういうふうに認識しております。

しかし、残念ながら現段階では市民レベルでの若者の声が届くような仕組みはなきに等しく、私自身、市議になるまで行政とのかかわり方はわかりませんでした。こうした面からも、若者の関心が薄れる前に、先般、募集、実施されました「わかかもんプロジェクト」は大変いいことだと思っております。私自身、一人のメンバーとして誠心誠意頑張っていこうと思っております。

行政と市民が一丸となって住みよい武雄、にぎわう武雄をつくるよう、今後とも、しり切れトンボとならないように、ぜひ継続的に取り組んでいただきたいと思っております。

先日、社団法人武雄青年会議所主催で行われました新市長と語ろう会ですが、自分もスタッフの一員だったということもあって、なかなか全部を聞くことはできなかつたんですが、中でも観光の重要性、中心市街地の重要性を市長は積極的に話されておりました。

そこで市長にお聞きします。私は松原生まれの西浦育ち、天神在住という根っからの武雄の町の中の人間です。そういう人間として、まず最初に、中心市街地として具体的には駅前通りの照明について質問させていただきます。

ブログとか記載されておりましたので、私も拝見しましたが、大阪から帰郷されたとき、武雄駅に夜到着されたと聞いております。そのときに駅前通りを見られて、もちろん今現在は駅前整備中ではありますが、この駅前通りを見てどう思われたか、率直な感想をお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

昨年12月の終わりに武雄市に帰郷してまいりました。そのときは緊張して周りの景色はわかりませんでしたけれども、ただ、選挙期間中に松原通りを歩いていたときに、特に夜歩いていたときに、真っ暗な状態で、私が高校のとき過ごしたときとはもう随分違うなあというふうに正直に言って思いました。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私もたまにつき合いで たまにです。たまにつき合いで飲みに出かけるんですけど、実は私、親戚一同、酒豪ぞろいで痛風一家というような不評をいただいておりますけど、そういうわけかどうかわかりませんが、そういうときによく思うのが、やっぱり武雄駅前通り、つまり松原のおれんぢ通りの夜間についてなんですけど、これは照明が消えておるといのは市民、観光客にどがん映っとうとかなと、率直に思うわけですね。非常に暗いイメージはやっぱり観光地にとってマイナスの印象にしかならんと。照明器具がなくて暗かとなればまだですね。あるとに消えとるていうのが、やっぱり言い方が悪かばってんが、この町はもう長くはもちませんよと言っているようにしか見えんわけですね。こういう表現にちょっと不適切な面があるかもしれませんが、これについて、やっぱり行政のトップとして市長はどう思われますか、お答えをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

行政のトップとして、あるいは一市民として、今の真っ暗な状態というのは一日でも早く改良していきたいなというふうに思っています。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そこで商店街の方が、あの道は何とかせんばと、約20年前に28基の照明を設置されて、商店街が自前で年間約1,200千円ぐらいの電気代を払い続けてこられたという経緯があるようです。これは自発的に行った事業でありますけど、やっぱり郡部と違って駅周辺は市の顔といますから、そういった意味でも、やっぱり何らかの手だてをせんといかんというふうに思うわけでございます。結局、その道がやっぱり地元の方が負担しておる電気代の支出が大き過ぎて本来の事業に取り組むことができんでおんさあと。

だれが見てもやっぱり悪循環じゃなかかなというふうに思うわけですが、担当課の方にも相談に行きましたけど、あの道は県道やっけんですねえと。区画整理も控えとるけんがというふうな回答をいただいておった次第でございますけど、そこで、私はやっぱり区画整理がすぐ行われるもんでもないもんですから、整備されるまではまずあの照明を点灯させんといかんと、そういうふうに思うわけです。どうしてもそこで点灯するとなると、やっぱり費用が発生するわけですけど、そこは全額行政でというわけにもいかんとかなあというふうに思うんですけど、やっぱり民間と行政と、欲を言えばいろんな企業とか、そういったのとタイアップして武雄市全体の発展のためにつけるべきではないかというふうに思うわけですが、どうお考えでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、私が市長に就任して以来、職員の皆さんに対しては、できない理由よりできる理由を考えてほしいということで、見事に受けていただいて、まず松原交差点の道路照明につきましては、平成18年度の予算で県に一定の理解をしていただいて、つく方向になっております。その上で、先ほど議員から御指摘がありましたように、私も行政が100%ということになると、宮野町とか、あるいは本町等々の兼ね合いがありますので、3分の1を限度に補助を考えていきたいというふうに思っています。ほかの3分の2は、例えば九州電力さんであったりとか、あるいは先ほど御指摘があったように、企業さんであったりとかいろいろあるとは思いますが、一定の条件を設けて補助要綱を整備していきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。やっぱり武雄市の発展のためには、まず玄関口は明るうなからんぎいかんというふうに思いますんで、ぜひ取り組んでいただきたい。やっぱり身の皮が削られよる分は今後のまちづくりの運営においても改善していこうと。そいぎ、本数ばずうっと今は28基ついとぅばってん、本当にそいが必要かとかにゃというごたつとば今後の区画整理にも反映させてもらうごとですな。今、九州電力という話が出ましたけど、例えば省エネの電球をちょっとあそこだけ専用でちょっと開発してもらおうとか、そういういろんな取り組みの可能性があるとありますんで、ぜひ積極的によろしくお願いします。

それでは、次の質問に入らせていただきます。

続いてスポーツ振興についてですけれども、やっぱり武雄市の今後の課題は、武雄市にもっと多くのお客さんと呼ばんといかんとじゃないかと思うわけございまして、武雄市は今

まで温泉とか競輪、また焼き物などいろんな事業で武雄市を営業されてきたのではないかと
思います。もちろん関係の方々におかれましては、改めて敬意を表し、これからも積極的に
充実させることをお願いしたいところであります。

しかし、これからの時代、武雄市に集めるには、やっぱり既存のカードだけでは物足りな
さを感じている人も多いのではないかとこのように思うわけでございます。事実、観光客数
も1999年の138万人をピークに低迷が続いておりまして、2004年には16.6%減の115万人と、
加えて10年前には5割近くを占めていた宿泊客数も既にもう3割を切っていると。つまり売
り上げが落ちている会社というのは、やっぱり基礎事業をしっかり安定させ、新しい取り組
みに着手しないといけないと。語ろう会でも、武雄市には財産がいっぱいあると市長おっし
ゃっておりましたけど、しかし、それを生かしてきれていない。武雄市の潜在能力は極めて高
いとおっしゃっておりました。そういうことから、既存の温泉や観光など安定するよう努
力しながらも、訪問客をふやすための新たな仕組みに取り組むべきだと私は考えております。

そこで、新しい収入源としてという、ちょっと語弊があるかも知れませんが、スポー
ツを通じたまちづくりを提案していきたいと考えております。スポーツにはいろんな可能性
があります。子供の成長過程でも有意義であり、なおかつ高齢者、社会人にとって生涯スポ
ーツとしても考えると大変重要なものです。何より人を動かす力があるのではないかと思
います。

先日開幕したワールドカップですが、今夜は注目の日本戦が行われます。私もサッカー
を愛する人間として精いっぱい応援しようと思っておりますが、そこで今週の日曜日の第2戦、
18日ですけれども、競輪場を開放して屋外でみんなでサムライブルーを応援しようと、そ
ういう取り組みが行われようとしておりますけれども、市長はそれに対してどのようにお考
えですか、お答えをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今週日曜日に競輪場を無料開放いたしまして、私も市のトップとして非常にこれはいいこ
とだというふうに思っております。もともとの発端は、牟田副議長から私の方にこういった
ことができないかという話がありまして、それを市がやるのではなくて、何人かの民間の有
志の方に声かけしたところ、そちらの方でもう優先して動いていただくと、これは非常に
いい形だというふうに思っております。貝原先生が実行委員長を引き受けていただいて、J C、
N P Oの臥竜塾、あるいは武雄市のサッカー協会、一丸となって短期間の間に準備をして
いただいた。これについては深く感謝をしているところであります。私も応援に参ります。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そういうスポーツが人を動かす力があるというふうな認識で私は聞いておりましたけど、そういう多大な可能性を持つスポーツですけど、これまでの武雄市で合宿とかキャンプ、大会などの誘致というのは積極的に行われてきたのかなというのをお聞かせ願いたいんですが、お願いします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

私の方から答弁をさせていただきます。

以前、泉都武雄に大会を誘致する会、通称泉誘会というのがございましたけれども、いろんな事情がございまして、現在はそういった組織はございません。大会誘致については市のスポーツ施設がございまして、それを活用しての大会誘致というのは日常活動の中でやっていただいておりますし、また体育協会の方でもやっていただいております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

それでは、来年の7月28日から8月20日まで行われます高校総体ですけれども、県全体で150億円の経済効果が見込まれております。武雄市にはバドミントンと自転車競技、この2種目が予定されておりますけれども、これについて武雄市の受け入れ態勢をお聞きしたいのですが、市内の宿泊施設の利用見込みですとか、経済効果をどういうふうに武雄市として予想されておるか、教えてください。お願いします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

高校総体は来年の7月28日から8月20日まで24日間開催をされます。それで、まず経済の波及効果ですけれども、県全体では155億円ということで一応試算されておりますが、これを武雄市に当てはめると、単純計算ですけど、約9億円ということで算出をいたしております。

それから、開催の準備につきましては、実行委員会を立ち上げております。合併前にそれぞれの市町で立ち上げておりますが、新市の実行委員会ということで7月の中旬に立ち上げたいというふうに考えております。

なお、宿泊とか弁当の手配とか、そういった分については県の方で配食センターをつくるということになっておりまして、そちらの方で調整をするということにいたしております。

武雄市もバドミントン、それから自転車をやるわけですが、多数の参加があって、それから経済的にも効果が出てくればというようなことでも期待をいたしております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。それでは、インターハイの開催種目、これは29競技32種目予定されておりますけど、何で武雄市でバドミントンと自転車競技の2種目なんですか。2種目じゃなしにもっとほかにも競技人口が多い種目をさらに誘致することは不可能だったのかというのをお聞きしたいんですが。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

本市ではバドミントン競技の女子とそれから自転車競技、これはロードとトラックですが、この2種目が開催をされます。開催の競技の種目については県の実行委員会の方で決定をされておりますので、これは変更されるということはありません。（「答弁になっとらん」と呼ぶ者あり）

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

これからの競技を変更するというふうな質問ではなくて、これまで何で2種目だったか。ちょっと極端に言うと、やっぱり武雄市というのは交通の便も非常にいいし、温泉という付加価値もあり、なおかつ宿泊施設も整っていると。環境的には非常に優れているものがあるんじゃないかと考えるわけです。ですんで、そういった総体の種目が決まるときに武雄市としてもっと積極的に誘致すべきだったんじゃないかというふうに思うわけですが、そういう意味で質問をさせていただきました。

そういったのは、そこでやっぱり私を感じるのは、今そういうスポーツに関しては生涯学習課のスポーツ振興係というふうな形であいもこいも対応されて、非常に忙しくされております。今の時期でも、さっき7月に実行委員会を立ち上げる予定というふうに聞いておりますけど、先日いただいた資料の中では、ことしの4月1日現在で単独競技をその一つの地域で開催するに当たって、やっぱりほかの市町村、自治体はどこもすべて専任の担当者があるわけですね。武雄市は共催もあるんですけど、自転車競技に関しては武雄地区だけで行われるわけですね。そういうので、やっぱり専任の担当者というのがいないという対応では遅かと思うわけです。

そういうときでも、やっぱりそがんふうな総体の企画というのがわかった時点で、もう完全にその人が担当よってというような、スポーツ専属のチームというか、部署をつくっていたいて、体育協会と商工観光課、また、そういったほかの団体などとタッグを組んでスポーツを通して武雄市をアピールするよう、企業誘致とか学校誘致ももちろん重要ですけど、それに加えて大会、合宿等を誘致することも必要であり、スポーツ専門のプロジェクトチームをとにかくつくっていくということがこれからの武雄市には必要ではないかと考えるわけですが、その点についてどうお考えか、お答えをお願いします。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

県民の皆さんが待ちに待った高校総体がいよいよ来年になったわけでございます。現在、武雄市は競技団体の方から2名の専門スタッフが配置になりまして、これは自転車、バドミントンの高校の先生方でございますが、競技についての準備を進めてもらっております。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

資料を見る限りでは、県の方からというよりも市の対応がやっぱり遅いんじゃないかというふうに思うわけです。ほかの自治体を見られても、資料を見ましたところ、やっぱり武雄市だけが専属のスタッフがいないわけです。兼任の人はいますよ。そういう意味でもやっぱり積極的にスポーツを通じて生涯学習の一環というよりも、できればスポーツを営業の一つの材料として武雄市をPRすることを考えるべきだと、そういうふうに私は考えております。

実は、大会の誘致等も武雄市にできなかった。この2種目が武雄市であるというのを考えた場合に、やっぱりどうしても受け皿となる施設が足りなかったのではないかというふうに考えられますけれども、今の武雄市にある施設について質問させていただきますが、施設、はっきり言いまして、どういうふうな満足度を持っておられるか。今の武雄市のスポーツ施設自身が満足であるとお考えかどうかをお聞きしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、最初の質問に答えたいと思います。

7月に合わせて実行委員会が発足になります。そこで3人を増強していきたいというふうに思っています。いずれにいたしましても、私も政治家といたしましては誘致の一つのきっかけとなるようにできればよかったなというふうには思っております。

それと2点目です。満足かという御質問がありましたけれども、これはいろんなレベルに

よって満足という度合いが多分異なると思います。したがって、市民の一般的なスポーツということであれば、私は率直に言って他の近隣都市と比べて恵まれているとは思いますが、他方で、じゃあ、誘致をするといったときに、武雄市の施設が恵まれているかといったらまあ、そうではないというふうに率直ながら思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

もうまさにおっしゃるとおりだと思います。やっぱり大会等を誘致する 私はやっぱり積極的に大会を誘致して、キャンプを誘致して、武雄市をもっとスポーツ振興のまち武雄というふうに持っていけんかなあというふうな考えを持っておるわけでして、大会とか合宿とかそういう競技としてのスポーツを誘致した場合に、どうしても今の武雄市の施設だと十分じゃないかと、貧弱過ぎるというふうに思うわけです。今の現状の白岩体育館にしろ、競技場、球場にしろ、やっぱりどうしてもシーズン中にはなかなか借りられるような状態じゃなかわけですね。日程が詰まってあって、いざ使いたいと思ったときにも、やっぱりなかなか使えんと。

そういうふうな意味でも、やっぱり施設の充実というのはぜひまず取り組んでいただきたいんですが、ちょっと視点を変えて、市長の具約の21にあるようにネーミングライツの積極的な活用とか施設への広告収入など、民間の力をかりるというようなお考えもあるようですが、実際に武雄市でこうした取り組みが現実的に可能かどうか、お答え願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、前段の上田議員の質問に対して、意見に対して答えさせていただきます。

私はこのように思っております。まず、例えば私が沖縄県で関与いたしましたけれども、日本ハムのキャンプを誘致するといったときに、合わせて施設の改良を行いました。だから、今のオールジャパンで考えた場合に、施設をどんなによくしても、それは空箱で終わる危険性が非常に高い。したがって、例えばそういったプロ野球、あるいはJリーグ、こういったところが何人で何日間等々の見込みがあれば、それに合わせて施設整備っていうことを考える方が私は現実的なように思っております。ぜひ上田議員の人脈等を生かしていただいて、そういう話がありましたら、私の方にお声がけをしていただきたいと思いますというふうに思っております。これが第1点であります。

第2点のネーミングライツであります。これに関しては、私は武雄市では可能性があるというふうに思っております。と申しますのも、武雄市は非常に交通の便がいい。道路の利用率、あるいは言い換えれば車もどんどん走っているという状況下で、ほかの都市と比べると

非常にネーミングライツの可能性は高いというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど費用対効果のことで話があったと思いますけれども、とにかく今の施設じゃやっぱり九州大会のレベルの誘致すらままならんわけでごさいますて、私もちょっと一野球人として言うと、再来年の高松宮杯の全国大会がこちらの方に来るそうですが、そのときもやっぱり武雄市はメイン会場にも名乗りを上げられず、結局、みゆき球場を持つ嬉野市になったというような経緯もあるようです。その場その場の対応ではなく、そういうときに武雄市が名乗りを上げられるような施設の充実が絶対必要不可欠なものだと考えております。

そういった面から見ても費用対効果、私の人脈という大したものはありませんけど、いろんな人たちのお力をかりて、そういう大会誘致、キャンプ誘致等積極的に行いまして、やっぱり今の県内の市営球場としてはもう数少ないナイター施設がない球場とか、競技場においてもタータンが敷いてなくて公式記録にもならないような競技場、体育館においてもバレーの公式戦ができない天井の低さ、またコート狭さ、そういうのがやっぱりかなり目につくわけでごさいますので、私自身もそういう施設の充実をするためにも、大会誘致とかキャンプ誘致は積極的に取り組んでいきたいと思っております。

そういう中でも、やっぱり行政の中でもそういう専門の部署とかいうのは考えられませんか。お答え願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

専門の部署、あるいはプロジェクトチームは、その話が少しでも出てきた時点で私の責任でつくっていききたいというふうに思っています。まず専任のところをつくるのが私は先じゃないというふうに思っています。卵と鶏の関係でありますけれども、卵があって鶏だというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

卵の話でわけわからんことになりました。そういう意味でも市長の具約の40にあることでちょっと話を変えたいと思えますけど、武雄市のブランド品戦略というふうに掲げておりますけど、武雄ブランドというのはあえて品物に限定する必要はないのかなあと思うわけでありまして、武雄市からも野球やサッカーなどプロ選手というのを実は多く輩出しておるわけで

すね。スポーツに限らずですけど、人材も大きな武雄ブランドにつながると考えます。そういう面から積極的に取り組んでいただきたいと考えるものが、やっぱり野球に関していえば企業誘致にしても、例えば都市対抗野球に出場するような企業を誘致するとか、そういうのも一つの方法ではないかと。

実は、ことしも数人武雄市の方が他県の実業団に入社して頑張っておられるというのがあるわけです。そういう優秀な人材を武雄市で育て、プロに送り込むということもやっぱりぜひ考えていきたいと思うわけでございまして、佐賀の方にも佐賀スピリッツというふうな硬式のクラブチームができたわけですね。そこもやっぱり佐賀県の野球をしている人たちをそこで育ててプロに送り込もうというふうな取り組みがあっているわけですね。そこもやっぱり活動の拠点が今なかわけですよ。練習会場もままたらなような状態ですね。そいけん、やっぱりぜひそがんと武雄市に持ってきたいなあというふうに考えるわけです。

とにかくそういうふうにして、今まで武雄市は財政難、財政難と、お金もないというふうに考えておったわけですけど、やっぱり合併特例債なんかを使用して施設を充実させてというのが私の夢であります。とにかく武雄市のまちにはやっぱりそれが必要じゃないかというふうに思うわけでございまして、西部地区の道州制の問題もあって、西部地区の中心に武雄市がならんばいかんというふうに思うわけですね。そういうときでもやっぱり温泉とか観光をアピールするだけではなくて、ぜひスポーツを取り組んだまちづくりに取り組み、武雄市をやっぱりスポーツ振興のまち武雄と売り込んで、ぜひ西部地区の中心になるよう行政と一緒に頑張っていきたいなあと考えております。よろしくをお願いします。

それでは、続きまして教育問題に入らせていただきます。

私自身、4人の子の父親として、子供たちの将来について教育面でも非常に大きな不安があるわけです。今回の選挙戦で地域を回る中でも、同じような悩みを持っておられる同世代の親御さんというのがたくさんいることを実感しました。そのようなことから、今までも議会でもいろんな論議をされているようですけれども、高校再編もそうですけど、改めて来年度開校予定の県立中高一貫校に関連して質問をさせていただきたいと思っております。

市長も今回の選挙戦で積極的に、また軽快なフットワークで各地域を回られたそうですけども、その中で、この高校再編、また中高一貫校について市民からどのような意見を聞かれましたか。そして、どのようなことを感じられたか、そのときの率直な印象をお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

高校再編、とりわけ青陵の問題に関しては、議会でも私がここで語り尽くせぬものがあります。と申しますのも、私が12月の終わりに職を辞して回っていったときに、前半は青陵が

なくなることは特に山内町、あるいは北方町、武雄市の周辺部の皆さんからけしからんという話を私自身率直に聞いておりました。これは事実でございます。その上で私も回りながら勉強をし、なおかつだんだん声が、これはいたし方ない、そういった声も出ております。そのいたし方ないという声の一つに、少子化が思ったより進んでいると、だから予想を立てても、それ以上に進んでいる状態であれば、この再編というのはいたし方ない、そういう声も他方で聞くようになりました。一方で、正直に申し上げまして、いろんな形であれ武雄市に残ってよかったと、そういった声も聞きました。したがって、その意見の幅、次元の物すごくいろんな意見を聞くことができ、私も正直言って一人の人間として戸惑うことができました。

総括すると、今回の青陵の関係は、県の問題とは申しますけれども、私は一定やむを得ない部分があるのではなからうかというふうに率直に思っております。その上で、私は知事とも県の教育長とも、この話については意見交換を实はさせていただいております。その上で、特になくしてほしくないという声は、私の声を通じて県には直接伝えてはおります。ただし、やはりそこで議論を重ねるにしても、やっぱりしようがないという部分は私の胸の中でこたますものがあります。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。これも、やっぱり新市長が誕生して新しい武雄市となって、再度考える問題だと、新しい武雄市全体の問題だと私も再度質問したわけでございますけど、本当に非常に難しい問題だと私自身も考えております。全く高校再編で武雄高校 青陵高校問題というよりも、やっぱり武雄高校と青陵高校が統合されて一つの新しい高校ができると。それが一つの新しい高校が中高一貫になると。これについてはやっぱり中高一貫自身、私も武雄にあってよかとかなあ、必要かなあというふうに思うわけですけど、2校しかなか普通高校が統合されて、その統合されたとがなおかつそれが中高一貫という、これがやっぱり問題ではなかなあというふうに私も考えておるわけでございます。

とにかく一番問題は子供たちが不安にならないような教育環境、また子供を育てられる親御さんの不安を取り除くような教育環境をつくっていくべきだと考えておりますけれども、教育で私が最も重要なのは文武両道だと思うわけですね。さっきのスポーツについての話もちよっと絡む可能性もありますけど、私も東京で会社勤めの経験がありまして、人事担当の方ともよく話させてもらってたんですが、その人との話の中で、おまえ今までうちは受けた中でもやっぱり最低レベルの成績やったぞとよういわれよったわけですね。何で入れたとやというふうな話になると思うんですけど、やっぱり人事の人の見解というのは企業としてと

か社会人として必要なのは個性であり人間性と。知識が豊富にこしたことはないが、それよりも先輩関係とか道徳など社会を理解し、魅力ある個性など人間力豊かな人が大事と。体育会系はそこを知らず知らずに鍛えられとるような状態と。だから、どこ行っても体育会系は人気があるよと。決して私がそういう人間と言っているわけではありませんけど、私も全く同意見でありまして、私の4人の子供たちもやっぱりそういう人間に育ててほしいと思うわけです。

今回の高校再編によって、子供たちが受ける高校の選択肢というのはやっぱり武雄市から一つ減ります。そこで大げさになるかもしれませんが、学力重視に偏って地域活動離れとか、子供たちの個性を妨げる一つの要因につながるのではないかと懸念しております。やっぱり高校といっても武雄市にある高校ですので、勉強、勉強、勉強となるよりも、人間性豊かな子供たちをつくっていくために、どういうふうな取り組みをされているかというのをお聞きしたいんですが、よろしいでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

議員おっしゃるように、人間性豊かな子供たち、これは私たち大人一人一人の願いでもありますし、責務でもあります。公立中学校におきましては、これまでも申してきましたように、生きる力をどう培っていくかということで特色ある学校づくり、あるいは地域に根差した中学校経営ということで頑張ってきております。

中高一貫教育、これは県が進める新しい選択肢の一つであるわけですが、私はそのあたりにつきましては、我々が今ねらっている中学校の教育姿勢と全く同じだろうと理解をしております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、私も商売柄というか何というか、子供たちと接する機会が非常に多いわけでございます。先日も武雄高校の子供たちをつかまえて、学校おもしろかやというような話を聞いたところ、おもしろくないと。なすと、勉強、勉強、勉強やもんと。そいぎ、クラブ活動をしようもんで言うたぎ、中学校のときまではしよったばってん、もう勉強についていききらんけんやめろて言われたって。そいぎ、おまえが勉強ばせんけんやろうだいて言うたら、うんにゃ、だいでんやめんさったと、ほとんど今、我がの仲間はしよらんと。高校でもそういう教育でよかとかかと疑問が残ったわけでございますけれども。

それでは、県立中高一貫校に伴う危機管理についてお尋ねをします。

今までの教育制度を大幅に変更するに際して、いろんな問題、課題があると思います。市

の教育委員会としてはどのように調査され、問題に対し、どのように対応されているかを聞きたいのですが、まず我々子育て世代真っ最中の人たちにどのような形で説明されておるか。なぜかという、この中高一貫の仕組み、高校再編の仕組みを把握していない人っていうのが私の周りにも結構まだたくさんいらっしゃいます。もちろん保護者さんの勉強不足と言われるればそれまでかとは思いますが、中高一貫校の開校に伴いまして、より多くの保護者がやっぱり問題を把握して、子供たちが不安を抱かないように行政、有識者はもちろん、各保護者が一体となって考えていかないことには、本当に子供たちのための魅力ある学校実現は難しいのではと考えております。そういう意味でも、どのような周知の方法をとられているかをお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

教育委員会といたしまして、中高一貫教育校につきましても説明会というようなものは、これまでもPTA、あるいは学校長、あるいは育友会の方から要請がありましたことにつきましては、教育長初め県の方からも出席をいたしまして、説明をさせてきていただいたところでございます。また、本年度になりましては校長会の方でも説明会がございまして、校長を通してより現場的な視点から説明ができるような、そういう校長への研修会も行われたわけでございます。

また、開校がいよいよ来年度に迫ってまいりましたので、本年度いよいよ準備室が開かれまして、6月にはインターネットのところにもホームページが開かれると。それから、8月には学校説明会というのも武雄市の文化会館で開かれることになっております。これからは、また私たちとしてはそういう意味でいろいろとお父さん、お母さん方の質問には答えられるように、学校長を中心にしながら説明をしていきたいと思っています。

また、危機管理という御説明がありましたが、私は危機管理という視点で、開校後の公立中学校のあり方について今いろいろと悩んでおります。それは市内の小学校から中高一貫教育校に入る数があるわけですが、そのときに公立中学校に入学をする子供たちがその分だけ少なくなるわけですが、そのときに公立中学校の活力をどういうふうにして維持、高めていくか。これが非常に私にとっては課題でございます。それをどういうふうにしてやっていこうかと、妙案はないわけですが、やはり特色ある学校づくり、指導と評価の充実、あるいは教育課程の一層の見直しと、こういう根幹にかかわるものを今まで以上にやっていかない限り、公立中学校の魅力を増すことはできないだろうと。

最終的になりますが、要は教職員の資質向上、これが最終的な課題であると私は考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの話にもありましたけど、県立の中学校に入れなかった子供たちのこと、これに関してもう一点。この県立中学に入るのは内申書とか適性検査などで選抜されて、あとは抽せんにより選出というふうになっておると認識しておりますけれども、小学6年生の大事な進路をやっぱり抽せんと言いかえるとくじですね。それ自体納得できないわけですけど、仮に抽せんに漏れた子供たちの心のケアというのはどのように考えられておるか、お聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

庭木教育長〔登壇〕

中高一貫教育校の入学までのプロセスについて、今お話がありましたが、適性検査、あるいは面接、あるいは調査書、こういうもので第1次の選抜をします。これは学力をはかるということでなくして、これからの高校教育、中学校教育という視点で6年間の中等教育というものを履修していくのに、コミュニケーション能力でありますとか、問題解決力とか、あるいは思考力とか、表現力とか、こういうふうなものが非常に大事になってくるという、こういう学校のあり方等を考えていきますときに、学力で選抜をすることじゃなくして、第1次でそういう、先ほど申しましたようなことで行っていかれることになっておりますが、そういうものの中から最終的には本人さんの、先ほど申されたように、抽せんという一つの方法が今回、これまでも致遠館、あるいは唐津東等で取り入れられているわけですね。ですから、この一つの方法としてこれもやむを得ない県の判断だというふうに思いますので、私もそういうふうなことで考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私の知人でも昨年、致遠館高校を受けて1次に通ったという方がいらっしゃいまして、その後の抽せんで漏れたと、外れたというようなことで、やっぱり子供さんが非常にショックを受けられて、親御さんから、もうこれは何とかならんとかというふうな質問をたくさんいただいたわけでございます。そういった意味でも、やっぱりこの抽せんというのが私も非常に納得いかないところではあります。

とにかく行政主導の高校再編、中高一貫校など、大幅な教育制度の変更があるわけでございますので、県の教育委員会の問題だからというような県任せというふうな、そこまでは言いませんけど、最も影響を受けるのが武雄市の子供たちなわけですから、やっぱりもっと教育環境が偏ったり不備があると、武雄市の発展にも絶大な障害になることは間違いないと考

えるわけでございます。子供たちの不安とか、子育て中の親の心配をなくすよう、今まで以上にやっぱり市の方も県と協議していただいて、子供たちの未来によりよい教育環境をつくっていただくよう強く希望することをお伝えしまして、次の質問に入らせていただきます。

それでは、最後になりましたが、市の財産について質問させていただきます。

具体的には公用車、いわゆる黒塗りですが、市長のブログに掲載されていまして、市民の興味も非常に高いようです。市長のブログはメジャーで、私のブログはマイナーとうらやましい限りですが、私自身、よく市民から黒塗りは最終的にどがんしゅうでしょんさっとねという声をよく聞きます。市の財産でもあります。市民に売却方法などを含めて、詳細をできるだけわかりやすく説明することが必要ではないかと思い、また早急に行うべきものだと考えましたので、市長、この場をかりて的確に説明をしていただきたいなと考えるわけでございます。お願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

公用車の問題について、私から答弁をさせていただきます。

私は、さきの選挙公約の中で、私が市民参加を呼びかける観点から、特権的な黒塗りは似合わないというふうに申し上げておりました。そういった意味で、これは私の公約の一つであるということをもっと申し添えたい。その中で、市長車というのは、シンボリスティックな意味があります。例えば、内閣総理大臣がどういった車に乗るか、あるいは環境大臣がどういった車に乗るか、あるいは知事がどういった車に乗るか、一般の車とはちょっと違うシンボリスティックな意味があることから、私は二つの側面を考えました。一つは、環境に配慮した面、それともう一つが、私が選挙期間中に橘の洪水、あるいは武内の洪水に駆けつけたときに、これは果たして黒塗りの公用車でいけるやろうかということを思ったときに、災害対応のSUV、この二つの側面から私は今般、黒塗りの廃止ということを思い立った次第であります。

もう少し具体的に申し上げますと、燃料や二酸化炭素の排出量等を比較した場合に、燃料については10年間で500千円から700千円の節約が期待できます。二酸化炭素につきましては、年間で約30%程度の排出量削減が見込めます。以上の考え方に基づいて現在の黒塗りの車1台を、ただ全部廃止をすると、市にはいろんな公人の方がお見えになります。したがって、市の公人利用と、あるいは議会用として、この1台は残す。その上で、あとの分についてはできるだけ高く処分をし、先ほど申し上げました災害対応可能なハイブリッドカーを市長の公用車として購入したいと考えております。

黒塗り車の処分方法については、予算上は下取り価格の見積もりが販売業者から示されております。これは議案で提出をいたしますけれども、これに基づいて、私としてはインター

ネットオークションか、あるいは競売等でできるだけ、その価格よりも高く売れるようにして、市の財政に負担がかからないようにしたいというふうに思っております。この場合、もし下取り価格と差が出るようでありましたら、私は9月の補正予算でその部分については対応したいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。そして最後に、先日、ニュース番組でも伝えられておりましたけど、平成以降の結婚で、なおかつ4人以上の子供がいて、貯蓄はなくても子供が財産と考える家庭を今、ネオ子たくさんと言うそうです。少子・高齢化が最大の社会問題と言われている今の時代に貢献している多子世代ですけど、私自身も真ん中で当てはまっております。

うちの楽しみは子供たちがスポーツを頑張っていて、それを応援すること、これが何よりの楽しみでございます。少子化対策にはこういった親の楽しみをより多くの方に知ってもらうことが一番の対策につながるものだと考えておりますが、先日、白岩競技場で武雄市小学校陸上記録会が行われました。児童数約550名のイベントで、なおかつ平日の昼間だったんですけど、やっぱり我が子の雄姿を一目見ようと、スタンドは、私が思うに、この人たち仕事はよかったとやろうかにかあと思えるほど満員で、盛況でございました。少なくともそこにいた方々は子供の成長を見る親の楽しみを知っている人ばかりだったと思うわけです。

この少子・高齢化と言われている時代に、新婚であられます市長にもその楽しみを知ってもらえるよう、一日も早いおめでたの吉報を期待しながら私の質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。